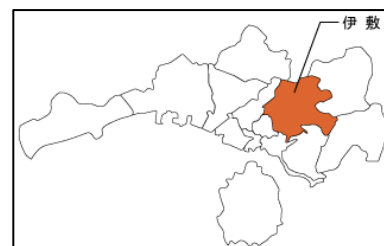


6-8.伊敷地域

(1)地域の概要

本市の北西部、甲突川の中流域に位置し、幹線道路沿道や甲突川沿岸の限られた平坦地と丘陵部の住宅団地、山林と山間部の農村集落で構成されています。

人口は、約4万8千人で減少傾向にあり、老年人口比率は34.7%と市全体の平均を上回っています。



(2)緑に関する現況と課題

地域の大部分は農村集落地であり、三重岳等の一団の山林や甲突川などの良好な自然環境が多く残されており、緑被率が64.1%と、市全体の69.2%よりは低いものの、比較的高く、緑に恵まれています。

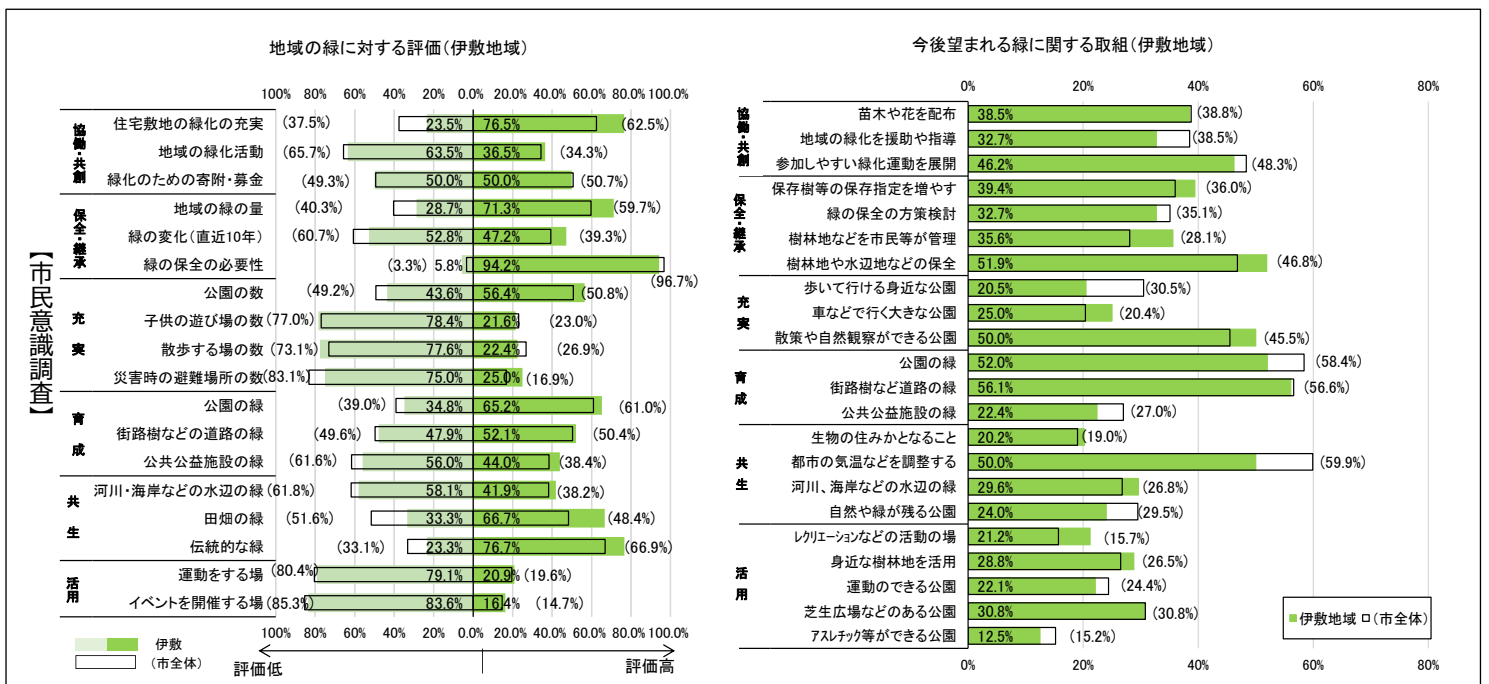
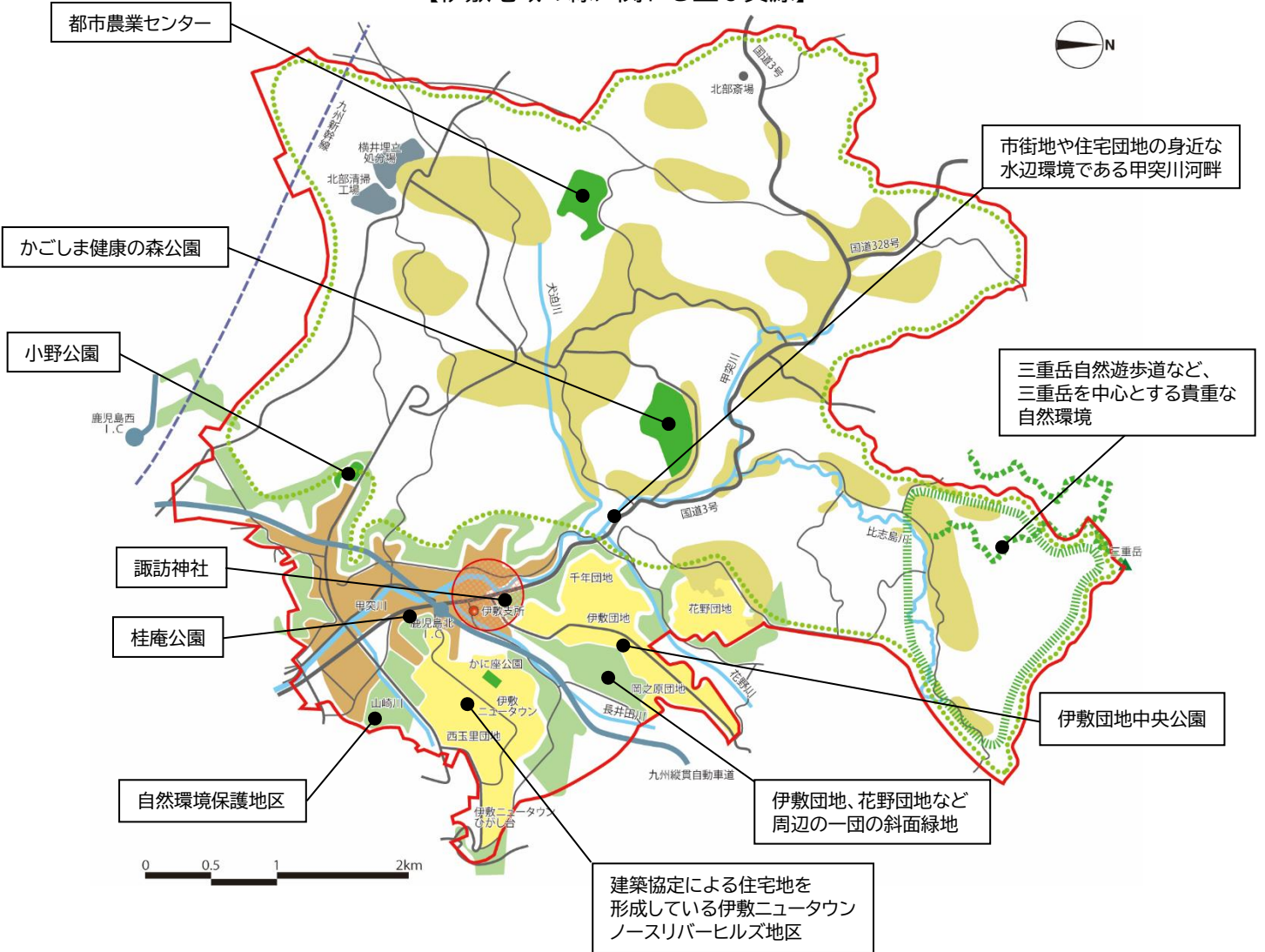
また、地域内の都市公園は53箇所あり、1人当たりの都市公園面積が11.4㎡/人と、市全体の7.9㎡/人に比べ高くなっており、かごしま健康の森公園や都市農業センターなどの交流の拠点となる施設も整備されています。

市民意識調査結果をみると、「緑の保全が必要」と考える市民の割合が高く、「運動」や「イベントを開催する場」、「子供の遊び場」等としての公園・緑地が少ないと考えている市民の割合が高い一方、「住宅敷地内の緑化」に対する意識や「伝統的な緑」の量は多いと考える市民の割合が高くなっています。

伊敷地域の特徴的な結果としては、市全体と比べ、「住宅敷地の緑化」に対する意識や「地域の緑の量」、「田畑の緑」が多いと感じている市民の割合が10%以上高くなっています。

これらのことを踏まえ、三重岳や甲突川などの良好な自然環境を保全・活用するとともに、既存の公園施設等の再整備による広く市民に親しまれる公園づくりや市民等との協働による緑化の促進、レクリエーション機能を有する施設を活用した交流の促進を図る必要があると考えられます。

【伊敷地域の緑に関わる主な資源】



(資料) 第二次鹿児島市まちと緑のハーモニープランの策定に関する市民意識調査(令和2(2020)年度)

(3) 緑に関する方針(伊敷地域)

良好な自然環境や拠点施設を生かした交流の促進と協働・共創による彩り空間の創出

三重岳や甲突川などの良好な自然環境を保全するとともに、それらの自然環境を生かしたグリーン・ツーリズムの推進や市民等との協働・共創による彩り空間を創出するほか、広く市民に親しまれる公園づくりやかごしま健康の森公園等を活用した交流の促進を図ります。

(4) 基本方針ごとの主な施策・事業

〈1. 協働・共創〉

- 花と緑の彩り活動の促進
- 公園愛護活動や街路樹愛護活動の普及拡大
- 地域コミュニティによる公園管理の促進（花野団地中央公園、玉里台第一公園等）
- いきいきグリーンカレッジ、実りまるごと収穫体験、市民園芸講座等の開催

〈2. 保全・継承〉

- 緑地保全制度の活用（自然環境保護地区、農業振興地域整備計画や森林整備計画に基づく取組等）
- 斜面緑地保全方策の検討
- 保存樹等の保護の推進（栄門公園内、玉江小学校内、諏訪神社境内等）
- 緑の維持・保全によるうるおいのある都市景観の形成等の推進
- 緑の維持・保全による防災・減災等の推進

〈3. 充実〉

- 緑のシンボル拠点の公園等の整備・充実（かごしま健康の森公園）
- 緑のレクリエーション拠点の公園等の充実（都市農業センター）
- 公園・緑地の歴史的資産の維持・保全（桂庵公園）
- 公園・緑地のバリアフリー化等の推進
- 公園施設長寿命化計画の推進
- 地域の実情に応じた公園・緑地整備の推進（民有地等の借上げによる公園整備等）

〈4. 育成〉

- 民間施設の屋上・壁面緑化の促進と制度拡充の検討
- 街路樹及び公園樹の再生（質の転換）
- 地区計画の活用による緑化の促進（明ヶ窪地区、南伊敷地区）
- 公共施設の屋上・壁面緑化等の推進
- 学校校庭の芝生化等の維持・保全（玉江小、伊敷台小・中、伊敷小・中、西伊敷小等）

〈5. 共生〉

- 学校や地域における環境学習・環境教育の促進
- 自然観察の場の活用（三重岳自然遊歩道（皆与志コース）、かごしま健康の森公園）

〈6. 活用〉

- 市民農園としての活用（都市農業センター、伊敷農園）
- グリーン・ツーリズムの推進
- 企業等による公園・緑地等の活用（かごしま健康の森公園）
- イベント等による公園・緑地等の活用（かごしま健康の森公園、都市農業センター）

【伊敷地域の緑の方針図】

